

大分県長期漁海況予報

〔平成 21(2009)年 1 月～6 月までの海水温・漁模様の見通し〕



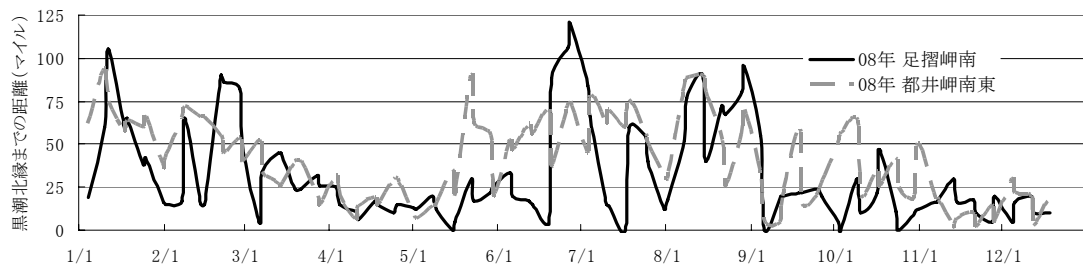
大分県農林水産研究センター水産試験場 879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦 194-6

電話：0972-32-2155 ファックス：0972-32-2156 HP アドレス：http://www.mfs.pref.oita.jp

海況経過<平成 20 年 8～12 月>

■黒潮

九州南東沖(都井岬～足摺岬沖)の黒潮は、6 月に形成された小蛇行(図4参照)の一部が四国沖を東進したため、8 月に「かなり離岸」しました。9～10 月は、残っていた小蛇行が次々と四国沖を東進したため、離接岸を繰り返しました。10 月下旬以降は概ね「接岸」傾向で推移しています(図 1)。



足摺岬：接岸 0～25 マイル やや離岸 25～45 マイル 都井岬：接岸 0～30 マイル やや離岸 30～50 マイル

図 1 足摺岬南及び都井岬南東方向の黒潮北縁までの距離(南西東海沿岸海況速報より)

■水温

豊後水道西部海域の水温(0～75m層)は、概ね「平年並み」で推移しました。8 月は「やや高め」、11 月は「やや低め」でした(図2)。

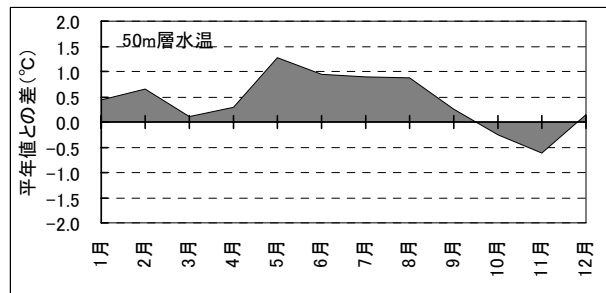
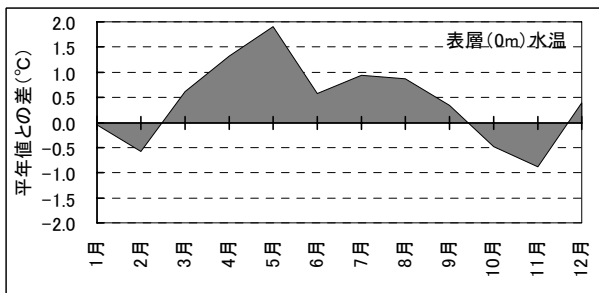


図2 豊後水道西部海域における水温の平年差(左図：表層水温、右図：50m層水温)

■塩分

豊後水道西部海域の塩分(0～75m層)は、概ね「平年並み」で推移しました。12 月が「低め」でした(図3)。

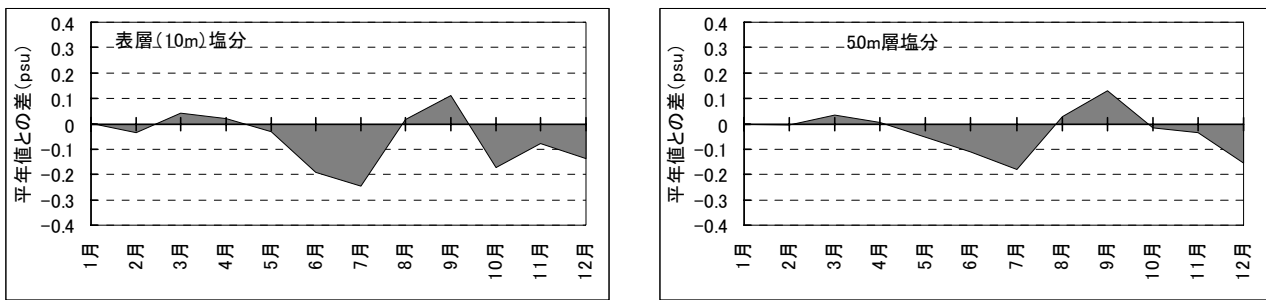


図3 豊後水道西部海域における塩分の平年差（左図：10m層塩分、右図：50m層塩分）

今後の海況の見通しく平成 21 年 1～6 月

■黒潮

九州南東沖（都井岬～足摺岬沖）の黒潮は、2～3 月と 6 月に一時的に離岸傾向となるほかは、接岸傾向で推移するでしょう。

黒潮が足摺岬沖で接岸した際には、小潮時に豊後水道南部海域へ黒潮系暖水が流入する確率が高いでしょう（特に 4 月以降）。

■沿岸水温

「平年並み」～「やや高め」で推移するでしょう。

■予測の説明と根拠

- ・黒潮流路予測は平成 20 年度第 2 回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報（中央水産研究所及び関係府県：2008 年 12 月）に従いました。
- ・沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられ、福岡管区气象台の「九州北部地方3か月予報」では、1～3 月の平均気温は「高い確率 40%」と予測しています。
- ・近年、豊後水道沿岸の表面水温は上昇傾向にあります。
- ・1 月および 4～5 月は、九州南東沖の黒潮が接岸傾向で推移すると予測されているため、黒潮系暖水が豊後水道内へ波及しやすい状況となり、暖水波及時には一時的に水温が「高め」基調となる可能性が高いです。

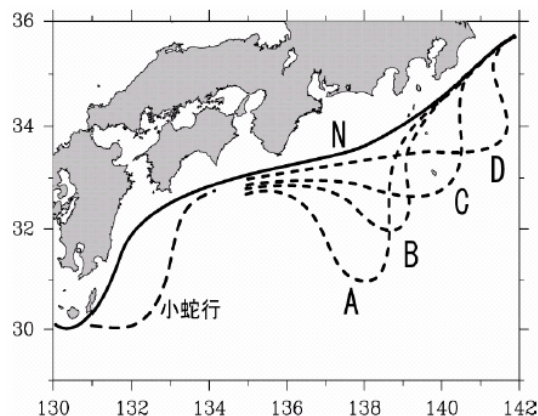


図 4 黒潮流型の分類

※上図は平成 20 年度第 2 回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報（水産庁プレスリリース資料）より引用

■マイワシ

2008年8～11月の漁況経過

豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの漁獲量は30トンで、前年比19%、1986～2007年までの比(以下「**平年比**」という)2%と、低調な漁が継続しました。1980年代の高水準期に比べると、依然として低水準の状況です。

漁獲の主体は、8月に漁獲されていた被鱗体長13～15cm前後の0歳魚(2008年生まれ)でした。9月以降のまとまった漁獲はみられていません(近隣海域では高知県が10～11月に漁獲していました)。

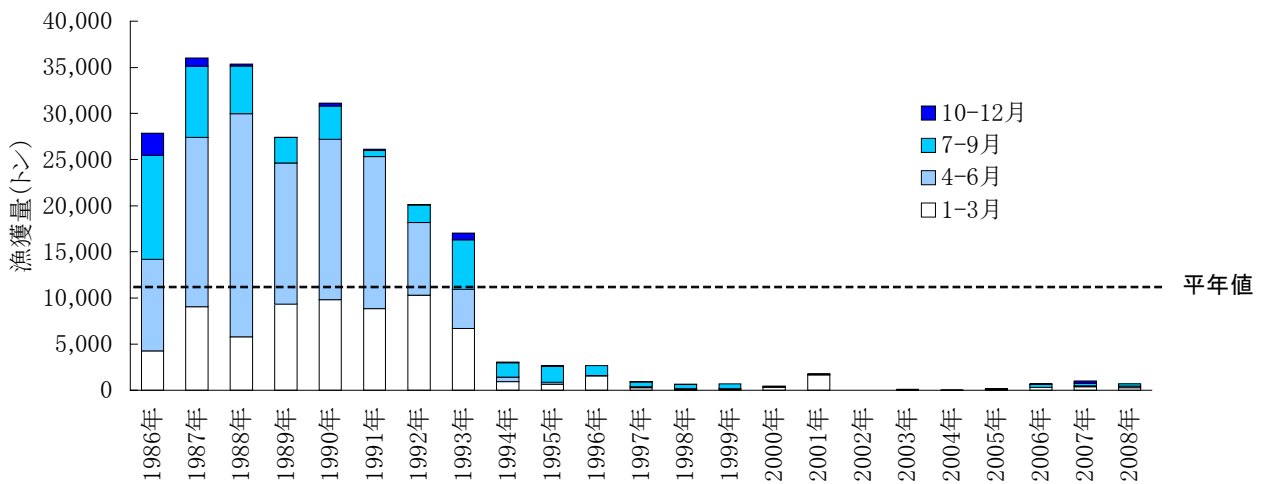


図2 マイワシのまき網漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成21年1～6月>



来遊水準:

豊後水道南部海域(沖合)への来遊量は依然として低水準で、前年を下回るでしょう。

漁獲対象年級群及び体長:

1～3月は被鱗体長19cm(体重80g)前後の1歳魚(2008年生まれ)が主体で、4～6月から被鱗体長7～12cm(体重20g)前後の0歳魚(2009年生まれ)が漁獲対象となるでしょう。

近年の調査結果によれば、1～3月には1歳魚が豊後水道南部沖合で、4～6月には0歳魚が湾内などの沿岸域で漁獲され、1歳魚が期間中の漁獲量の大半を占める傾向にあります。

【説明】

1～3月の漁獲主体となる1歳魚(2008年生まれ)の資源水準は、太平洋沿岸の産卵量が前年を下回っていたこと(54%)、シラス漁でのマイワシシラス(稚魚)の混獲が前年よりも少なかったこと、近隣海域の多くで小羽銘柄(幼魚)期のまき網漁獲量が前年を下回ったことから、前年1歳魚(2007年生まれ)を下回ると考えられ、前年ほどの来遊は期待できません。また、4～6月の漁獲主体となる0歳魚(2009年生まれ)の来遊量については、現段階では不明ですが、親魚が少ないことから1980年代のような高水準は期待できません。

■カタクチイワシ(成魚)

2008年8～11月の漁況経過

豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの漁獲量は333トンで、前年比16%、平年比43%と、前年・平年を大きく下回る低調な漁となりました。

漁獲の主体は、8～9月が被鱗体長9cm前後の0歳魚(2008生まれ)と11cm前後の1歳魚(2007年生まれ)、10月以降が5cm前後の0歳魚でした。なお、例年10月以降の漁獲主体となる0歳魚は、シラス漁に引き続き、小～中羽漁でも西日本各地で不漁となりました。

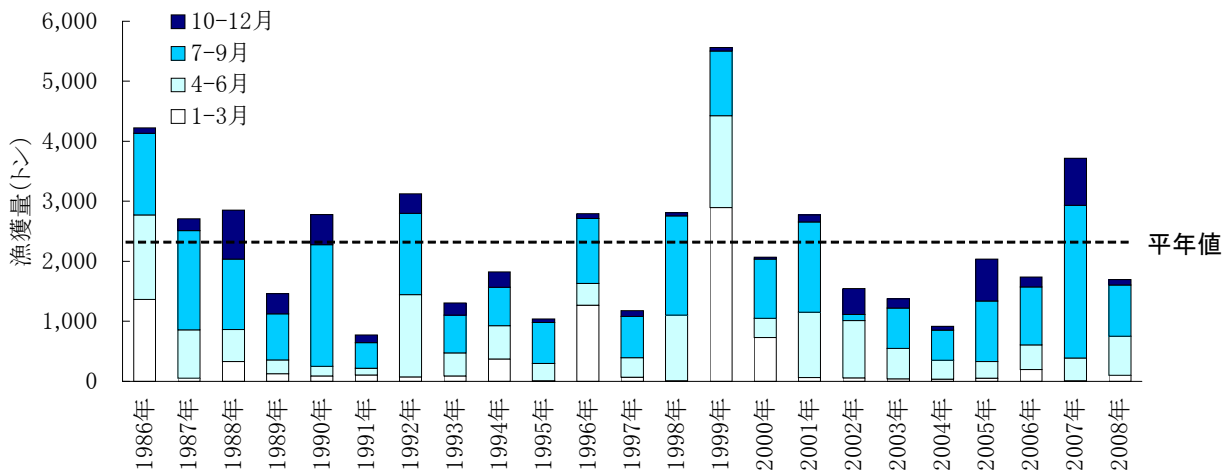


図3 カタクチイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成21年1～6月>

来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は、前年を下回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

近年の調査結果によれば、1～5月は被鱗体長8～12cm(体重10g)前後の1歳魚(2008年生まれ)が僅かに漁獲され、6月になると被鱗体長6cm(体重3g)前後の0歳魚(2009年生まれ)が1歳魚に混じり、漁獲量が急増する傾向にあります。

【説明】

1～6月の漁獲主体となる1歳魚(2008年生まれ)の資源水準は、太平洋沿岸の産卵量が前年を下回っていたこと、近隣海域でのシラス漁(稚魚)及び、まき網での小～中羽漁(幼魚)が不漁であったことから、発生量が前年に比べてかなり少なく、今後のまとまった来遊が期待できません。

また、0歳魚(2009年生まれ)の来遊量については、現段階では不明です。なお、北日本から日向灘に南下回遊してくると考えられている大羽群(親魚)の来遊は今期も前年に引き続き期待できないと考えられており、0歳魚を産む親魚の条件はさほど良くありません。

■ウルメイワシ

2008年8～11月の漁況経過

豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの漁獲量は463トンで、前年比41%、平年比151%と、豊漁であった前年は下回ったものの、平年を上回る好調な漁となりました。

漁獲の主体は、0歳魚(2008年生まれ)でした。漁場・漁獲サイズは8月が佐伯湾で被鱗体長11～13cm、豊後水道南東部で15cm、9月が佐伯湾内で11cm、豊後水道南東部で18cm前後でした。

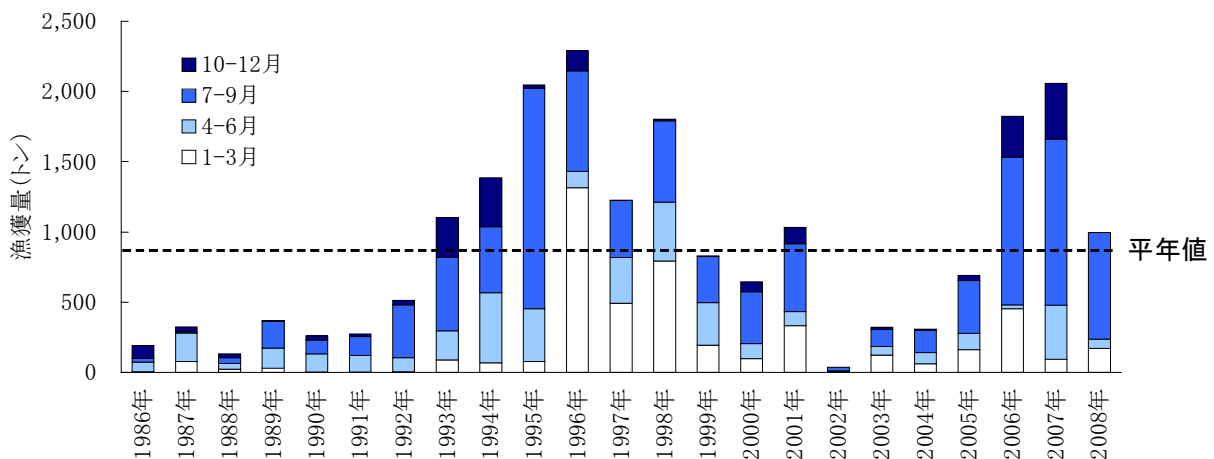


図5 ウルメイワシのまき網漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成21年1～6月>



来遊水準:

豊後水道南部海域(沖合)への来遊量は、前年並みか前年を下回るでしょう。湾内などの沿岸域に来遊する小羽の発生量は、現時点での予測が困難です。

漁獲対象年級群及び体長:

1～3月は被鱗体長20cm(体重90g)前後の1歳魚(2008年生まれ)が豊後水道南部沖合で、4～6月は被鱗体長5～12cm(体重5～20g)前後の0歳魚(2009年生まれ)が湾内などの沿岸域で漁獲対象となるでしょう。1歳魚が期間中の漁獲量の大半を占めると考えられます。

【説明】

1～3月の漁獲主体となる1歳魚(2008年生まれ)の資源水準は、太平洋沿岸の産卵量が前年を下回っていたこと(約70%)、シラス漁でのウルメシラス(稚魚)の混獲量が前年よりも少なかったこと、近隣海域の多くで小羽銘柄(幼魚)期のまき網漁獲量が前年を下回ったことから、資源水準が高い前年1歳魚(2007年生まれ)を下回ると考えられます。しかし、過去20年間の中では比較的高い資源水準にあると考えられています。その他、2008年1～6月期に関しては、2007年生まれ群の高い資源水準に見合った来遊が無く、漁獲量はさほど多くありませんでした。

0歳魚(小羽)はシラス漁での混獲具合を今後調査し、発生状況を把握する予定です。

■マアジ

2008年8～11月の漁況経過

豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの漁獲量は1,276トンで、前年比116%、平年比84%と低調であった前年をやや上回り、平年を下回りました。10月に豊後水道中～南部でまとまった漁獲があった以外は、期間を通して低調な漁が継続しました。

漁獲の主体は尾叉長13～15cm程度の0歳魚(2008年生まれ)で、マルアジ0歳魚の混獲が目立ちました。

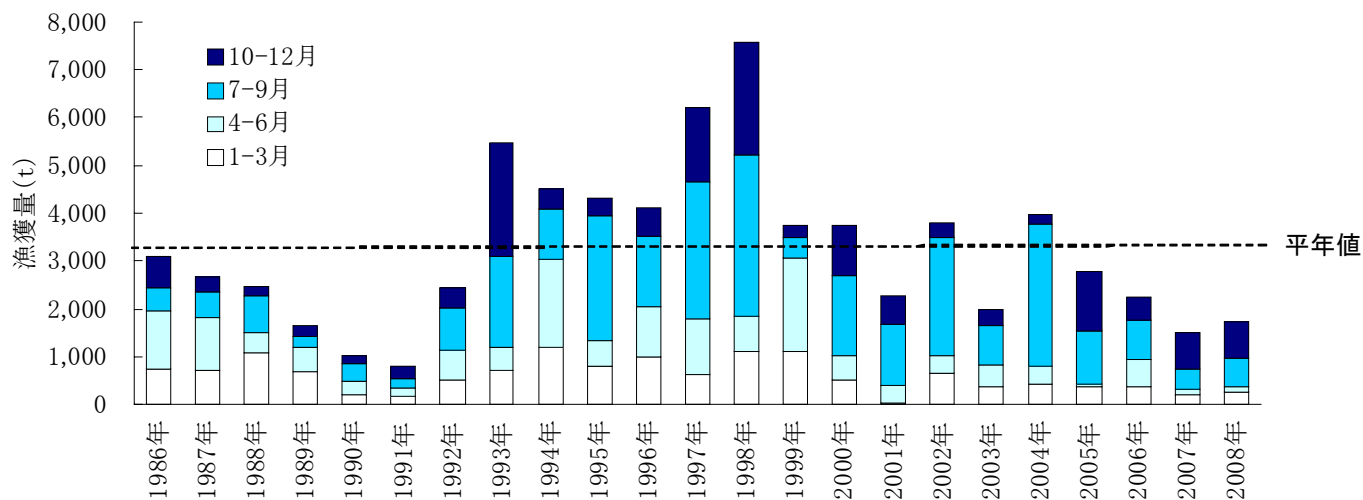


図6 マアジのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成21年1～6月>

来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は、低調であった前年並みか前年を下回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

期間を通して尾叉長15～20cm(体重50～90g)前後の1歳魚(2008年生まれ)が漁獲の主体となり、2歳魚以上(20cm以上)は散発的に漁獲されるのみでしょう。5月以降に0歳魚(2009年生まれ)が混じるでしょう。

【説明】

1～6月の漁獲主体となる1歳魚(2008年生まれ)の資源水準は、近隣海域の多くで豆ゼンゴ銘柄(幼魚)期の定置網漁獲量が好調で前年を上回っていたものの、その後の漁獲が各地で低調となっていることから、低水準であった前年0歳魚(2007年生まれ)並みか前年を下回る程度と考えられます。

また、豊後水道中部に南下してくる大型魚の来遊量は予測できておりませんが、1歳魚以上を主な漁獲対象としている北郡まき網のマアジ漁獲量は前年を下回っている状況にあります(前年比73%)。

■サバ類

2008年8～11月の漁況経過

豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の漁獲量はゴマサバ主体に2,745トンで、前年比505%、平年比107%と不漁であった前年を大きく上回り、平年並みの漁獲となりました。

漁獲時期が平年よりも1～2ヶ月遅れ、7月末から多獲され始めました。漁獲の主体は、尾叉長27～28cm程度のゴマサバ1歳魚(2007年生まれ)で、豊後水道中～南部において10月まで漁獲されていました。

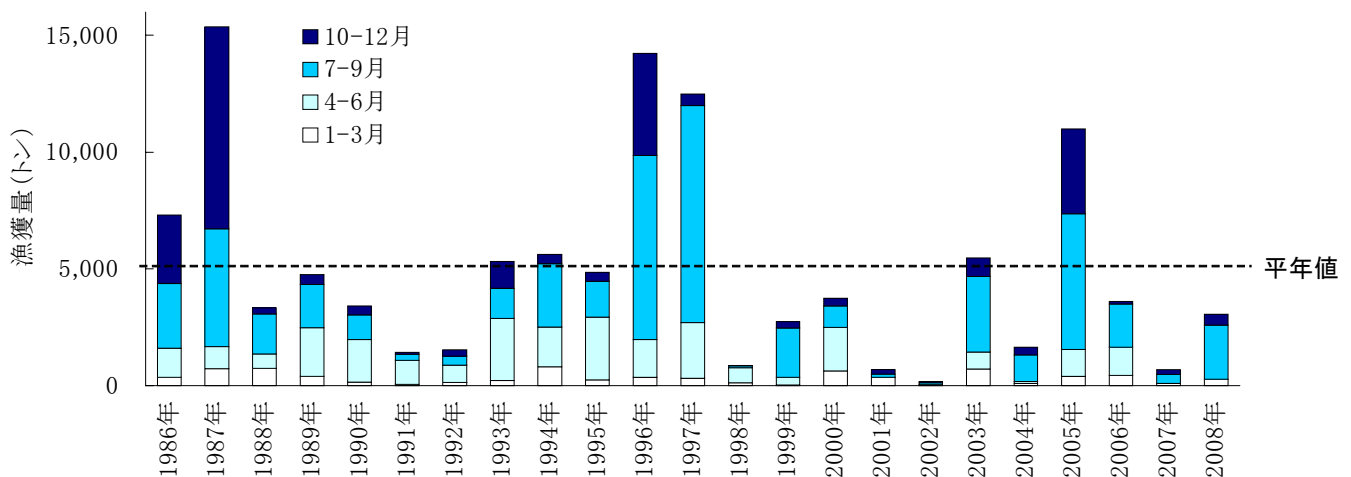


図7 サバ類 (マサバ・ゴマサバ) のまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成21年1～6月>

来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は、ゴマサバ主体に不漁であった前年を上回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

1～3月は尾叉長30cm(体重400g)前後のゴマサバ2歳魚(2007年生まれ)主体に、3歳魚以上の大型のゴマサバが漁獲対象となるでしょう。4月以降は2歳魚主体に1歳魚が混じり、内湾域で0歳魚(2009年級群)が対象となるでしょう。近年の調査結果によれば、1～5月は25～35cm(1歳以上)のゴマサバが僅かに漁獲されるのみで、6月以降に本格的に来遊し漁獲量が急増する傾向にあります。

【説明】

予測期間中の漁獲主体となる2歳魚(2007年生まれ)の資源水準は、近隣海域の多くで前年を上回る好調な漁獲がみられたことから、2005年に豊漁となった2004年生まれ群(卓越年級群)の水準には及ばないものの、2005～2006年生まれ群を上回る比較的高い水準にあると考えられています。このことから、6月以降のまとまった来遊が期待されます。

3歳魚(2006年生まれ)と4歳魚(2005年生まれ)は現在までほとんど漁獲されておらず、資源水準はかなり低いと考えられ、1～3月における大型魚の大規模な来遊は期待できません。

その他

■予測の根拠および参考資料

平成20年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係府県:2008年12月)

■用語解説

年級群 : ある年生まれの同種の個体群。2008年級群=2008年生まれの個体群。

卓越年級群:漁獲対象資源へ成長するまでに生き残った個体数が他の年に比べて特別に多い年の年級群。

被鱗体長 : 体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。

尾叉長 : 体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究センター水産試験場 栽培資源担当まで

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

電話:0972-32-2155

FAX:0972-32-2156